



農作業を安全に行いましょう

農業用機械の利用は、農作業の効率化のため、とても重要ですが、一方で取扱いを間違えると重大な事故につながる可能性があります。

秋の収穫シーズンを迎え、稲刈りなどで大型機械を使う機会が多くなります。作業中に限らず、移動中の事故にも十分注意して下さい。「農作業は、焦らず、急がず、慎重に」を台言葉に農作業事故にはくれぐれも注意していただくようお願いいたします。



専門学校山梨県立農業大学校 平成29年度の入学生を募集します

21世紀の農業・農村社会を担うにふさわしい実践力と優れた経営感覚を備えた農業経営者の育成を目指す専門学校山梨県立農業大学校では、来年度の入学生を募集します。

試験	科	願書受付期間	試験期日	合格発表日
推薦入試	養成科	平成28年9月15日(木) ~9月28日(水)	10月12日(水)	10月26日(水)
一般入試	前期	平成28年11月7日(月) ~11月18日(金)	12月7日(水)	12月20日(火)
	後期	平成29年1月23日(月) ~2月3日(金)	2月15日(水)	2月24日(金)



※第5回学校説明会を10月29日(土)10時30分から開催します。

〒408-0021 北杜市長坂町長坂上条3251
 問い合わせ先 TEL:0551-32-2269 FAX:0551-32-2034
<http://www.pref.yamanashi.jp/noudai/>

大災害から農家経営を守る!! 果樹共済へのご加入をお勧めします

近年は異常気象の影響により、局地的で突発的な被害が増えており、果樹栽培における災害は毎年のように発生しています。果樹共済はこうした災害による減収を補てんし、農家の経営を守る国の災害補償制度です。

現在NOSA I (農業共済組合)では、平成29年産の総合短縮方式と特定危険方式(暴風雨、ひょう害、凍霜害に限定)の加入推進を行っています。特に、全ての自然災害を対象とする総合短縮方式への加入をお勧めしていますので、この機会にぜひご検討ください。

皆さまの栽培状況に応じた見積書を作成させていただきますので、お近くのNOSA Iまでお気軽にお問い合わせください。



NOSAI 山梨

中央支所 ☎055-266-4411
 南アルプス支所 ☎055-282-0443
 北部支所 ☎0551-23-1111

山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

■編集/発行 山梨県総合農業技術センター ■住所 甲斐市下今井1100 〒400-0105
 ■Tel.0551-28-2496 ■Fax.0551-28-4909
 ■URL.<http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/>
 ■E-mail.sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp



No.34
平成28年9月23日発行

農業革新 支援スタッフ 県オリジナル品種「甲斐のくろまる」について

「甲斐のくろまる」は、果樹試験場でピオーネ×山梨46号(巨峰×巨峰)を交雑した中から選抜。平成25年に品種登録された新品種です。出願公表後の平成23年から山梨県オリジナル品種(県内限定品種)として苗木の供給が始まり、これまでに4,000本を超える苗木が配布されています。

本品種は、早生で着色が良く食味が優れる黒色系4倍体品種で、盆前出荷が可能な地域や着色不良が問題となっている地域を中心に普及が期待されていますが、若木のうちは着粒数が不足気味になるなどの課題も明らかになってきました。

現在、安定生産に向けて、現地での実証ほを活用した栽培性の検討を行っており、JA営農指導員との研修会も実施しています。栽培管理の手引きを作成するなど、本品種の安定生産に向けて関係機関一丸となって取り組んでいます。

昨年からは市場出荷も始まっており、今年は昨年を大きく上回る9t以上の出荷が見込まれています。先般、果樹試験場において一般公開を行い県内ブドウ農家、関係機関の指導者など多くの方々に参加し、本品種の特性や品質等を確認しました。

今後も本品種の普及定着を目指し、高品質安定生産に向けた生産指導を進めていきます。



野菜の連作障害対策に 環境にやさしい土壌還元消毒を

総合農業技術センターでは、「スイートコーン残さを用いた土壌還元消毒によるネコブセンチュウ防除法」を成果情報として発表しています。土壌還元消毒とは、糖を含む有機物を多量に施用した後で灌水し、湛水した状態とすることで、土壌を還元状態(酸欠状態)にして病原菌やセンチュウなどを死滅させる土壌消毒方法です。

今年度、現地実証ほを2ヶ所設置して、効果の確認を行っています。栽培期間の都合上、スイートコーンの代わりに生育速度の速いソルゴーを利用しました。それにより、は種からすき込み、湛水処理、耕うんまで、約2ヶ月間で土壌消毒を完了することができます。

今後、化学農薬を使用しない環境にやさしい土壌消毒方法として、普及が期待されます。

水稻・大豆のほ場審査を実施

米や大豆は食糧として重要な作物であり、県内において高品質な米や大豆の生産を普及するため、県内生産者向けに、県が指定したほ場において優良な種子の生産が行われています。

普及センターでは、種子生産ほ場約25haの全てにおいて、8月から9月にかけて、品種や地域それぞれの生育ステージに合わせ1次、2次審査を実施しました。

今後は、収穫された種子に対する発芽の良否、不良な種子及び異物の混入状況等について生産物審査を行い、審査に合格した種子が、来年度、農家の皆さんが栽培する水稻や大豆の種子として使用されることとなります。



ほ場管理の農家とのミーティング



水稻のほ場審査の様子



地域直売所の活性化を目指して

峡東地域普及センターでは、直売所を核とした地域の活性化を目指した支援を行っています。果樹地帯のため直売所に出荷される野菜の品目が少なく、多品目栽培に向けた情報提供や、冬春期の出荷に向けた取組を支援しています。

その中で、直売所の活性化と新規取組者の拡大を目指して、JAフルーツ山梨が4月から実施している「野菜栽培営農講座」では、新たに直売所への出荷を希望する農家を中心に約20名の受講者が参加しています。講座は実習を中心としており、育苗方法や病虫害防除、小型ハウスやトンネル等の資材を利用した周年栽培、直売所出荷農家の見学、品目毎の特性や肥培管理のことなど、野菜栽培初心者の方が、直売所出荷に向け取り組んでいくのに役立つ内容となっています。受講生から、実習や座学の内容以外にも、自身の栽培品目に関する質問等が多く出されるなど、活気のある講座となっています。

また、笛吹市芦川農産物直売所「おごっそう家」への新たな秋冬野菜の取組に向けた、試験栽培なども行っており、今後管内各直売所の品目増加に向け支援することで、さらなる直売所の活性化に向けた取組を図っています。



普及センター職員による座学を開催



直売所出荷農家の取り組みを視察しました

ブドウ栽培の担い手育成 「ブドウ栽培基礎セミナー開催支援」



JAふじかわでは、退職後就農者や新たな直売所出荷者の確保を目的に「ブドウ栽培基礎セミナー」を開催しています。受講生は他産業に従事している方や、ブドウ栽培に興味のある方を対象とし、JA管内で新聞折り込みチラシにより募集しています。また、受講者が参加しやすいように、毎土・日曜日の午後開催されており、これまでに冬季剪定や春先の新梢管理、房づくり、摘粒について、実際にほ場を使用し、実技を中心にセミナーが実施されています。

峡南地域普及センターでは、この取り組みを普及活動計画に位置づけ、セミナーの講師を務める他、アンケート調査に基づいてセミナーの内容の充実を図る等、開催を支援しています。

今後もJA等と連携しながら、地域農業の新たな担い手の確保や育成に向けた取り組みを進めていきます。



ブドウ栽培基礎セミナー
房づくりを受講している様子



受講生が実際に房づくりを行いました

「富士山やさい」の品目拡大と 知名度向上に向けて



春まき夏どりタマネギの収穫前の様子

富士山麓地域の野菜生産組織で構成する「富士山野菜生産者協議会」では、地域で生産される野菜を「富士山やさい」と名付け、地元の料理店等で食材としての活用を推進しています。

近年、協議会では、産地強化の観点から生産品目の拡大を進めており、学校給食等、地場利用の需要が高いタマネギの栽培に取り組んでいます。普及センターではタマネギ栽培の実証ほを設置し、春まき夏どりの作型に適した品種の選定を支援しています。

また、知名度向上に向けた取組では、協議会のPR活動を支援しています。今年も7月23日(土)～24日(日)の2日間、富士吉田市のイツツモア赤坂店との連携により「とれたて新鮮!富士山やさいフェア」を開催し、朝どり野菜のPR・販売を行いました。お客様からの評判も良く、富士山やさいが地元浸透していることが窺える2日間でした。

今後、協議会では、10月に秋野菜を中心とした「富士山やさいフェア」の開催や、スイートコーンの品種比較試験等を計画していることから、普及センターは更なる知名度向上に向けた支援を行っていく予定です。



とれたて新鮮 富士山やさいフェア